

令和6年度 第3回若葉区支えあいのまち推進協議会講演会 開催報告

1 日時 令和7年2月20日（木）13時30分～16時00分

2 会場 植草学園大学 さくらホール

3 当日の出席者数 87名

団体名等	参加人数	（参加者の応募方法）
推進協委員	18名	
社協地区部会	12名	各社協地区部会あてに依頼
民生委員	16名	各民児協地区会あてに依頼
自治会	9名	各連協会長あてに依頼
行政・市社協	9名	市職員庁内掲示板に募集掲載 市社協連絡会等で応募の声掛け
学生	0名	植草学園大学・東京情報大学・千葉大学に パンフレットの配架を依頼
一般	10名	千葉市役所ホームページに掲載
事務局	13名	

4 講演内容 ※別添パンフレット参照

（1）開会・委員長あいさつ

（2）第一部・基調講演 「地域コミュニティの再生に何が必要か」
千葉大学大学院社会科学研究院教授 関谷昇教授

（3）第二部・事例紹介

・「ほぼ毎月駄菓子屋」 千田理子氏

・「グリーンスローモビリティさくらまる」 東田日出夫氏

（4）質疑応答

（5）植草学園大学からのお知らせ・閉会

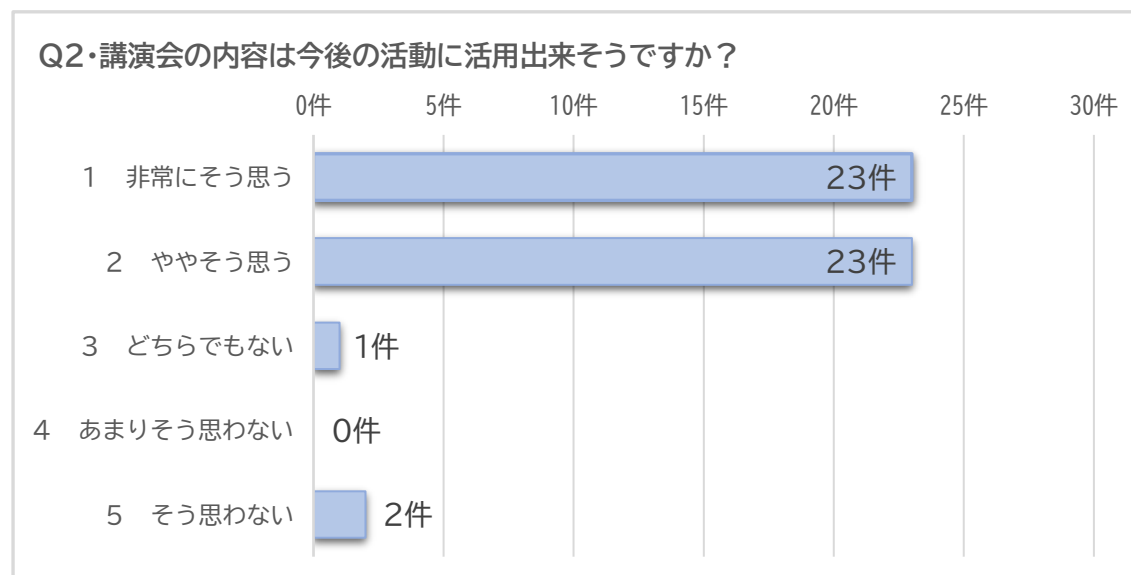
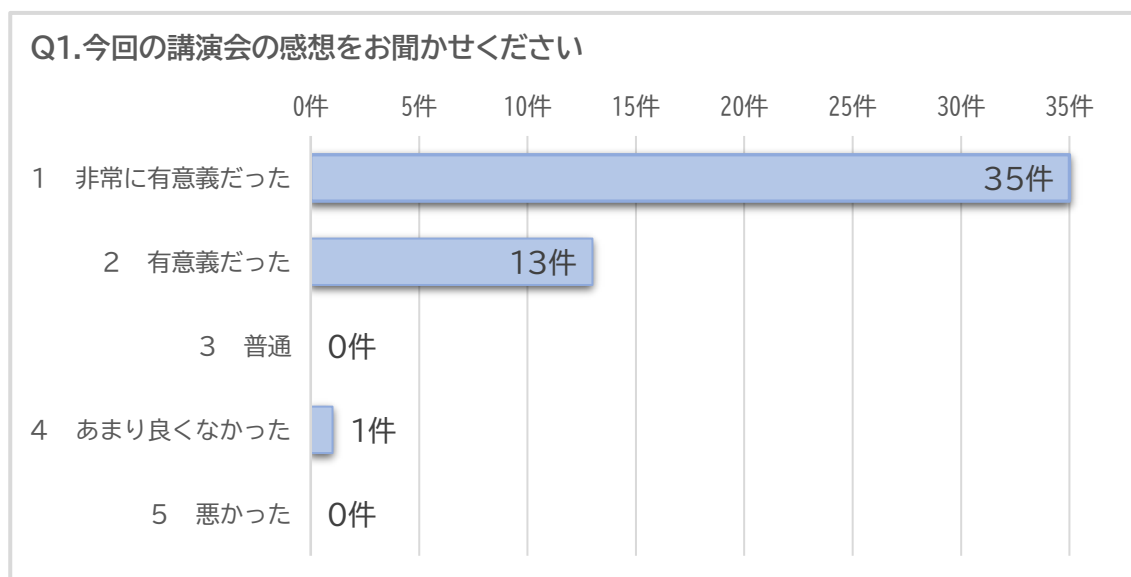
5 アンケート結果 ※別添アンケート用紙参照

アンケート回答者数－４９名

※内訳 オンラインによる回答・・・２２名

回答用紙提出による回答・・・２６名

≪集計結果≫ ※回答者数４９名



○感想・意見のまとめ

質問1 感想について

【良い意見】

1 地域の理解とつながりの重要性

講演を通じて地域の状況や「つながり」の大切さを再認識し、地域活動に対する意欲が高まった。

2 実践的な学びと共感

関谷先生の講演や事例紹介は非常に有益で、特に「できる人ができるときにできることをする」という考えに共感を得た。

3 目標が明確になったこと

活動に対して明確な目標を持つことができ、今後の方向性がクリアになった。

【悪い意見】

1 既存の枠を超える難しさ

既存の枠に合わせて生きてきた自分がその枠組みを取り外し、新組織を作ることはハードルが高い。

2 具体的な提案の不足

講演で例示したから後は考えろという点に関しては、若葉区の地域に即した具体的な提案が欲しかった。

質問2 今後の活動に活用できるか

1 地域との関わりの重要性

地域資源マップなどを活用して地域の課題や強みを理解し、日々の接触を通じて実践的な活動を進めたい。

2 協力とつながり

縦割りの活動から、テーマ活動で異なる委員会や世代を横のつながりで結びつけることが重要。単独よりも関連する委員会が合同で開催する機会が増えてきたので引き続き進めて行きたい。

3 リーダーシップと目的の設定

地域活動が長期的に続くためには明確な目的設定とリーダーシップが必要。地域のニーズに応じた実践的な行動が求められている。

質問3 印象に残ったこと

1 つながりの重要性

地域活動で「横のつながり」が大切であり、世代や部門を超えて協力が重要。

2 地域課題と解決法

地域課題を見える化やできないことを伝達し合うことが必要。事例として発表された「ほぼ毎月駄菓子屋」や「グリーンスローモビリティ」については評価された。

3 コミュニティ作り

強制ではなく、参加者が楽しんで活動できる環境を作りや、自由に参加できる仕組みを推進することが必要。

4 今後、受講したい講演内容

1 地域活動の事例とフォローアップ

事例のその後の展開や成果、問題点を深掘りし、具体的な取り組みの紹介

2 地域貢献活動や企業の関与

企業としての地域貢献活動や成功事例

3 自治会や地域コミュニティの運営方法

高齢者ばかりの自治会の運営方法。外部との連携方法を具体例とともに紹介して欲しい。
自治会や地域コミュニティの今後のあり方を考える。

4 女性役員や防災役員の役割の変化

女性や防災役員の立ち位置が変わりつつある中での成功事例や課題を共有

5 福祉活動と市民活動の広がり

福祉活動が市民活動に広がらない理由とその解決方法を探る。

5 その他

講演会では、外に繋がる運動や、つながりが強調され、参加者は内容について評価された一方、時間の関係もあり質問時間の不足や参加者数の少なさを惜しんでいました。会場の設備や駐車場の完備については好評でした。全体的に、有意義な学びの場として感謝の意が多く表され、参加者が共に考える良い機会となったと思います。

※【参照】講演会終了後の関谷先生からのコメント

「地域コミュニティは正解があるわけでも決まった形があるわけでもないので、現場に即して、あるべき活動を模索し続けられる知恵と技術が必要なのだと思います。ぜひ、今後は考えを出し合って、練りあって、一つでも自分たちなりの活動を増やしていただけたらと願っております。

研修としては、ワークショップで考えを持ち寄り、どんなことが可能か議論しあってみると、もっと実感が湧くと思われます。何かあれば、またお声がけください。」